

接続中期－1（5歳児1月～3月）

うれしいな もうすぐ 1年生

友達とともに過ごしてきた喜びや成長を感じ、主体的に保育所（園）・幼稚園生活を進める時期

＜学級の中でのつながりを深め、充実感を味わう体験を＞




できるようになったことや成長を認め、自信や意欲を高め、就学への期待感をもてるようにする援助や環境構成の工夫を

事例9 接続中期—1 ともだち、喜んでくれるかな 1月 保育所（園）・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 友達と共通の目的や見通しをもち、考えを出し合いながら遊びを進めるようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】 自分の考えや思いを様々な方法で表現し、意欲的に活動を楽しむ。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 少し難しいことでも、あきらめずに取り組もうとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで生活の場を整えながら、見通しをもって生活する。【健康】 友達と役割分担をし、考えを出し合いながら協力して遊ぶ。【人間関係】 身近なものに関わる中で、文字や数量に関心をもつ。【環境】 生活に必要な文字や数量に関心をもち、遊びの中で使う喜びを味わう。【言葉】 経験したことや感じたことを言葉や絵で表現することを楽しむ。【表現】



ねらい 文字や数字に関心をもち、積極的に遊びに取り入れ、郵便ごっこを楽しむ。	
遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
<p><遊びや活動の経過> お正月に年賀状をもらってうれしかった体験から、郵便ごっこへの意欲が高まっていった。特に女兒は友達同士で手紙のやり取りを楽しんでいる様子がある。郵便が届くまでの仕組みを先生に尋ねたり絵本で調べたりする。仕組みを知ることで、自分達で手紙の仕分け、スタンプ押し、配達などの仕事の役割分担を考えている。「相手が喜ぶような手紙を書こう」「もらってうれしい手紙がいいね」など具体的に相手に伝えたい内容についても語り合っている。</p>	
<p><だれに書こうかな> C：お休みしていて会えない友達に手紙を書きたい。 C：引っ越した友達になかなか会えないから書きたい。 C：年賀状をもらってうれしかったから返事を書きたい。 C：自分のことを教えてあげたいから手紙に書きたい。 ★：相手意識をもち、「書きたい」という意欲をとらえ、はがきを提示する。</p> <p><郵便番号や住所はどこに書く> T：はがきには番号が書いてあったでしょう？郵便番号って言うんだよね。手紙を出すときは、クラスの数字を書いて。名前やクラス名も書くと、届け先がすぐに分かるね。 C：名前は、ここの真ん中に書いていいよね。 C：Aちゃんの「え」はどう書くんだったかな。 C：えんぴつの「え」よ。これこれ、これを見て書いたらいい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文字には、人に思いを伝える役割があることに気づき、手紙を書きながら友達とのつながりを感じている。 【数量や図形、標識や文字への関心・感覚】  <ul style="list-style-type: none"> 相手に分かるように言葉で伝えたり、相手の話を聞いて理解したりし、言葉による伝え

よ。(50音表の「え」を示す。)

C:名前を書いたよ。Bちゃんに出すことにした。

C:Bちゃんだけじゃ分からないよ。

C:あっ、そうだった。すみれぐみで、003。これでいいね。

★:友達同士で文字を教えたり、50音表で調べたり、姓名があることを知らせたりする様子を見守り、状況に応じて文字の形や書き方を知らせ、より興味が深まるようにする。

<手紙の配達です>

C:郵便ポストを見に行こう。たくさん入っているかな。

C:手紙を配達袋に入れるよ。入れたら次、かわってね。

C:スタンプを押したら、こっちの机に持ってきて。

C:ひまわり組の手紙はここに置いておこう。

C:Cちゃんは何組さんだっけ?

C:郵便番号を見たら分かるよ。

C:そうだった。教えてくれてありがとう。

C:分けたら、さくら組から配達に行くよ。2人組で行こう。

C:手紙の配達に来ました。Dちゃんにお手紙です。

T:ありがとう。ご苦勞様。頑張ってるね。

★:仕分けや配達を楽しみ、張り切っている様子を見守りながら、自分たちで進めていることを認めたり、状況に応じて助言したりしていく。

<もらってうれしかった>

C:手紙をもらってうれしかった。

C:「ありがとう」って笑ってくれたから、うれしかった。

C:うれしい言葉をたくさん書いてくれた。

C:字が読めるようになったので手紙が来てうれしい。

★:相手がうれしくなる言葉を考えて書いたり、文字が読めるようになったりして、自分の成長を感じていることを共感的に受け止めていく。クラス全体に具体的に知らせ、一人一人が成長を感じられるようにする。

合いを楽しんでいる。

【言葉による伝え合い】



・配達について考えたことを相手に分かるように伝え、役割分担して、幼児同士でやり遂げている。【協同性】



・園内の人と触れ合う中で自分が役立つ喜びを感じている。

【社会生活とのかかわり】



・少し難しいことでも自分の力でやってみようとし、あきらめずにやり遂げ、達成感を味わっている。【自立心】

考 察

○実践のように、郵便ごっこという共通の目的や見通しをもち、考えを出し合ったり役割分担をしたりしながら協力する体験は、お互いのよさが分かり、楽しみながら遊びを進められるようになることが分かった。

○実践のように、遊びの中で必要性から文字や数字を読んだり書いたりすることは、文字や数字への興味や関心が高まると共に、手紙をもらう相手の気持ちを思いながら、内容を考えることができるようになることが分かった。

●実践のような姿は、小学校の生活や学習において、友達と互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿や、自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿などにつながっていく。

事例10 接続中期—1 お店のしなものをつくったよ

1月 保育所(園)・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 自分たちの成長を感じ、入学への期待をもつようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】 学級やグループの友達と共通の目的や見通しをもち、考えを出し合いながら遊びや生活を進める。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 少し難しいことでも諦めずに取り組もうとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活に見通しをもって取り組んだり、考えを出し合ったりする。【人間関係】 ・自分のめあてに向かって、諦めずに根気よく取り組む。【表現】 ・文字や数量に関心をもち、生活や遊びの中で使う喜びを味わう。【言葉】 ・冬から春への自然の変化に気付いたり、季節感を味わったりする。【環境】



ねらい 3・4歳児との関わりを楽しみながら、お店の品物を丁寧につくり、出来上がりの達成感を味わう。

遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
---	----------------------------------

＜遊びや活動の経過＞
園全体でお店屋さんをつかって保護者を招待することとなる。年末の商店街の様子を見に行き買い物体験をしたり、お店の人が働く様子を見たりして興味をもつ。どんなお店がしたいか話し合い、冬休みの間に材料集めをして、3学期が始まったら持ってくることになる。1月になって、3・4歳児を含めてしたいお店ごとのグループをつくり、それぞれのお店でつくる品物を決める。5歳児がリーダーシップをとり、縦割りグループで力を合わせてつくっていく。

<p>＜どんな果物をつくる？＞ T：今日は、どの果物をつくりましょうか。 C：お店には、いろいろな種類のリンゴがあったね。 C：モモは箱に入っていたから（値段が）高いよね。 C：モモがいいよ。並べて飾っていて美味しそうだったよ。 ★：つくりたい果物を尋ね、果物にまつわるエピソードを引出し、つくる果物のイメージが具体化できるようにする。 ＜モモとブドウをつくらう＞ T：何を使って果物をつくりませんか。 C：新聞紙を丸めてつくったらいいよ。 T：丸くできるかな。小さいお友達でもできるか心配だね。 C：大丈夫、僕たちが仕上げをしてあげるから。 T：新聞紙を丸めてつくりましたよ。丸めるときにどんなことに気を付けたらいいかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お店見学に行ったときに果物屋さんで見た果物の特徴を思い出しつつ、名前を言っている。 ・友達の発言にうなずいたり、共感したりしながら、果物のイメージを共有している。 ・3・4歳児に対して、自分たちが優しく手助けしようという気持ちをもっている。 <p>【社会生活との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙を固く丸める方法を3・4歳児も理解し、ギュッギュッと歌いながら楽しく
--	--

C：固くしないとすぐ膨れるよ。大き過ぎたら駄目なもの。
 T：よく気が付いたね。先生もしてみるよ。
 C：最後にギュギュッとしっかり握るといいね。
 C：ギュギュッよね。ブドウは小さいからつくりやすいね。
 C：ほら，膨れてきたね。もっとギュギュッとしなくちゃ。
★：新聞紙を使って作った経験があるので，イメージの共有ができています。擬音語を使うことで，固く握る方法を掴み，リズムカルに楽しくつくれる雰囲気をつくる。

<今度は色を付けようね>

T：ひまわりさん，果物の仕上げは大丈夫ですか。
 C：ギュギュッとして，ちょうどよい大きさになっています。
 T：それでは色を付ける方法を考えてみましょう。
 C：絵の具で塗っても新聞の字が見えるよね。
 C：色紙で包んだらいいと思うけど。
 C：それだったら，小さいお友達もできるね。
 C：決まり。そうしよう。
 C：黄緑で包んでいるから，マスカットをつくっているね。美味しそうだね。
 C：糊をそんなに付けたらベタベタになるよ。
 C：糊はよく伸ばしながら付けた方がいいよ。できるかな。
★：色紙で包むことで本物らしくなっていく過程を見取って褒める。

<3・4歳児さんと一緒に>

C：お姉ちゃんみたいにゆっくり丸めるといいよ。
 やってみて。上手だね。きれいなお花ができたね。
 C：止めるところができない。
 C：大丈夫。お姉ちゃんが今から止めるからよく見ていてね。
 C：糊を少し付けて，よく伸ばしてから止めるよ。
 C：おねえちゃん上手。私もしてみよう。
★：優しく声をかける様子や，できているか確認しながら仕上げていく様子褒め，達成感を味わえるようにする。

つくっている。

【豊かな感性と表現】



・自分の果物をつくりながら，3・4歳児の世話もしている。優しく声をかけたり，うまくいかないときは手伝ったりして安心させている

【自立心】

・3・4歳児もできる方法を考えている。

【思考力の芽生え】



・幼児なりに支える経験を積み重ねて自信を深めている。

【自立心】



考

○実践のように，この時期に継続的に3・4歳児と関わる活動を行うと，5歳児が3・4歳児に対して様々なアドバイスをしながら遊びを進め，育ってほしい姿につながっていることが分かった。また，自分のできることを3・4歳児に優しく教えることで自信を深め，達成感を味わっていることが分かった。

察

●実践のような姿は，小学校生活において，相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しんだり，関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れたりする姿などにつながっていく。



事例11 接続中期—1 たこ、たこ、あがれ！

1月

保育所（園）・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 友達と関わり、色々な友達の思いや考えなどを感じながら行動するようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】 感じたこと、考えたこと、イメージしたことを様々な方法で自分なりに表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 あきらめずにやり遂げることで達成感や満足感を味わい、自信をもって行動しようとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに負けず、友達と一緒に戸外で体を動かして遊ぶ。【健康】 ・友達と一緒に考えを出し合い、協力して遊びを進める。【人間関係】 ・物の性質や仕組みなどを感じたり気付いたりして物との関わりを楽しむ。【環境】 ・考えたこと、感動したことを先生や友達に話して会話を楽しむ。【言葉】 ・感じたこと、イメージしたことを工夫して表現する。【表現】



ねらい お正月遊びにはどんなものがあるか話し合い、凧づくりや凧揚げを楽しむ。	
遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけと関わり	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育って ほしい姿
<p>★：援助する上での留意点</p> <p>＜遊びや活動の経過＞</p> <p>お正月にした遊びの話から、カルタ・トランプ・凧揚げなど昔ながらの遊びの様子が子どもの言葉で語られ、園でも羽根つきやコマ回しなどを体験することができた。その後、お店ごっこの品物づくりを様々な用具を使って楽しんでいく中で、「凧をつくりたい」という発言が聞かれる。子どもたちは凧づくりに向けて、どんな凧があるのか絵本で調べたり、凧を持参したりして凧づくりに対しての興味が高まっている。</p>	
<p>＜凧づくりをしよう＞</p> <p>T：調べてみると、いろいろな凧があることが分かりましたね。 その中から、1番よく揚がりそうな六角形のビニール凧をつくることにみんなで決めました。今から材料を配ります。</p> <p>C：好きな色の棒を取っていいよ。どの色の棒がいい？</p> <p>C：ピンクにしよう。2本取るよ。</p> <p>C：ぼくは、青と緑がいい。1本ずつ違う色にしたよ。</p> <p>C：ビニールは広げて置いておこう。棒は短い方が上よね。</p> <p>C：(実際に六角形の長短の辺を比べて)こっちが短いから上よ。</p> <p>C：棒を2本、テープを使って、ビニールに貼るよ。</p> <p>C：はがれないようにしっかり貼ろう。</p> <p>★：作業の様子を見守り、難しい作業は状況に応じて手伝う。</p> <p>＜凧に絵をかこう＞</p> <p>C：ビニールが動いて絵がかきにくいな。</p>	<p>・様々な考えを思い巡らすなどして、自分でしなければいけないことを自覚し行っている。【自立心】</p>  

C：手でしっかり押さえてかいたらいいよ。
 C：かいたけど、ちょっと見にくい。
 C：ペンの太い方でかいたらいいよ。しっかり塗って。
 C：僕はスパイダーマンをかくよ。スパイダーマンはよく飛ぶよ。赤い線をたくさんかいていこう。
 C：僕は、新幹線をかこう。のぞみ、こだま、さくら、たくさんかくよ。
 T：絵をかいたら、凧糸としっぽを付けてみましょう。
 C：凧糸がはずれないようにしっかりビニールに付けよう。
 C：糸を端っこにつけるのむずかしい。もうちょっとこっちがいいかな。
 C：引っ張る糸は、ぐるぐる巻いてもつれないようにしよう。
 C：糸を引っ張ったら高く揚がるかなあ。
 C：しっぽは2本付けよう。付ける所はここでいいかな。
★：凧はバランスが重要になるが、友達と見比べたり、考えたりしながら自分なりにつくろうとしている姿を見守ったり、手助けしたりしていく。

<凧揚げをしよう>

C：風が強いね。飛ぶかな。
 C：そうっと凧を広げて。ああ飛んでいく。
 C：糸をしっかり持っておかないと、飛んでいってしまうよ。
 C：分かった。糸を離さないようにして走ってみよう。
 T：みんな見て、Aさんの凧が高く揚がってますよ。
 C：先生、凧が落ちて糸がぐちゃぐちゃになった。
 C：先生、テープが取れた。
 T：糸が取れたお友達は、テープがあるから自分でやり直してみましよう。どうしたら取れないようになるか、友達のやり方も見てみるといいですよ。
★：振り返る時間をもち、風の強さ、凧が揚がる高さ、糸の手繰り方など、気付いたことや感じたことを幼児が言葉で表現できるようにする。

・友達と互いに表現し合うことで、様々な表現の面白さに気づき、かく過程を楽しんでいる。**【豊かな感性と表現】**



・自分のことは自分で行い、自分なりに工夫して、あきらめずに自分の力でやり遂げようとしている。**【自立心】**



・うまく凧が揚がるにはどうしたらよいかを予想したり、確かめたり、振り返ったりしている。**【思考力の芽生え】**



考
察

○実践のように、凧づくりをして遊ぶ体験は、活動を楽しむ中で、自分のことは自分で行い、自分でできないことは実現できるように工夫したり、先生や友達の助けを借りたりして、自分でやり抜くようになる姿につながるということが分かった。
 ○実践のように、「うまくいかない」「やり直す」「気付く」「再度挑戦する」といった気持ちを体験することは、目的に向かって諦めずにやり遂げる姿につながるということが分かった。
●実践のような姿は、探究心をもち、主体的に問題を解決する態度や姿などへとつながっていく。


事例12 接続中期—1 ぼく、わたしの とくいわざ

1月

保育所(園)・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 様々な経験を積み重ね、自分の感情や意志を表現し合い、共感し合いながら、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動するようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】 友達の様々な考えに触れ、新しい思いや考えを生み出す。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 自分の力で最後まで取り組み、満足感や達成感を味わいながらやり遂げようとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・次の状況を予測して、見通しをもって行動する。【健康】 ・身近な人に親しみと感謝の気持ちをもつ。【人間関係】 ・相手に分かるように話し、相手の話も聞いて理解しようとする。【言葉】 ・自分の得意なことを体の動きや言葉、音等で表現する。【表現】



ねらい 自分の得意技を表現することで、自分の成長の喜びを味わう。	
遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育て ほしい姿
<p><遊びや活動の経過> 友達と遊ぶ中で「Aちゃん、折り紙を教えて」「B君、剣玉はどうやったら入るの」などの声が聞かれる。友達の得意なことやよさが分かり始めている。また、「保育参観で、一番得意な技を見てもらおう」と提案したことをきっかけに「1番の得意技は何か」「どんな場面を見てもらうか」「見せる工夫はどうするか」などの声も聞かれる。話し合いを重ね、家庭にも協力を求める。披露する技が決まるとお互いに技を見せ合い応援したり、励ましたり、技のやり方を相談したりする姿やお互いのよさや頑張りを認め合う姿が見られる。保護者に披露する技をよりよいものにしたいと試行錯誤を繰り返している。</p>	
<p><先生、大丈夫だよ> ★：用具を準備し、得意技を披露する順番に座るまで待つ。 C：ここに椅子を並べて座るよ。AちゃんはBちゃんの後だよ。 T：名前は〇〇です。〇〇〇〇をします。相手に分かるように説明するよ。「最後は、終わります」と言うよ。 C：ちょっと緊張するけど、先生、大丈夫だよ。</p> <p><やったね！ できた！> C：僕の名前はAです。剣玉をします。 C：(失敗すると)。今度は、きっとできるよ。 T：落ち着いて、もう一回やってみて、あわてなくていいよ。 C：入ったあ。やったね。じょうず。</p> <p>★：周りの幼児に、真剣な様子で糸をまっすぐにし集中するの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で用具の準備をし、出番順に椅子を配置し座って待っている。【健康な心と体】 ・失敗しても、何度も挑戦し、できた喜びを味わっている。 <p>【自立心】</p> 

を見守るように促す。失敗するが何度か挑戦する様子を応援しながら待ち、成功を共に喜べるように言葉かけする。

C：私の名前はBです。お洋服をたたみます。

C：袖を下に持ってきて、もう一つの袖も下に持ってきます。半分にし、たたみ終わったら、かごに入れます。終わります。

C：上手にたためたね。

★：担任は常に幼児から見える位置に座り、笑顔で見守り、安心して技を披露できるようにする。

C：僕の名前はCです。赤ずきんの絵本を読みます。

T：顔が見えるといいな。もう少し大きな声だと、皆によく聞こえるよ。

C：上手に読めているね。よく聞こえるよ。

T：お話を聞いているお友達は、赤ずきんちゃんやオオカミさんになったつもりで聞いてみましょう。

C：うまい。じょうずに読んでいたね。

C：オオカミの声がこわかった。すごい。

C：楽しかった。今度は、私も読んでみたい。

★：緊張している様子が見られるときは、言葉をかけたり、傍に行きスキップをしたりし安心感がもてるようにする。

<今度はもっとうまくなりたい>

T：今日の得意技の披露はどうだったかな。

C：恥ずかしかった。

C：僕も、ドキドキした。

C：緊張したけど、成功してうれしかった。

C：応援してもらってうれしかった。

C：ちょっと難しかったけど、できてよかった。

T：友達から見てもらって、アドバイスももらえてよかったね。とても上手だったよ。

C：今度はお家の人に見てもらいたい。

C：今度は、もっと練習して、もっとうまくなりたい。

C：今度は、縄跳びに挑戦したい。

・見せ方を工夫しながら自信をもって自分の得意技を披露している。【自立心】



・絵本の内容を相手に伝えようと、内容を確かめるように、ゆっくり読んでいる。

【言葉による伝え合い】



・あきらめずに自分の力でやり遂げ、満足感や達成感を味わい、自信をもっている。

【自立心】



考
察

○実践のように、得意技を披露する活動は、これまでの体験から「一番得意なことは何か」「挑戦してみたい」「上手になりたい」など、様々な思いを出す中で、自分の得意技を考え、自分の成長を考えるきっかけになることが分かった。また、満足感や達成感を味わい、自信をもって活動に取り組めるようになる姿につながる事が分かった。


○実践のように「失敗しても大丈夫」「やり直したらできる」「何度でもやり直していいよ」など、よりよくするために取り組むことの大切さを伝えることは、幼児が安心して技を磨き、何事にも挑戦しようとする姿につながる事が分かった。

●実践のように、自信をもって表現することは、教科等の学習だけではなく、小学校生活を意欲的に進める基盤ともなっていく。

事例13 接続中期—1 おにのおめんをつくったよ 1月 保育所(園)・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 自分たちの成長を感じ、入学への期待をもつようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】 学級やグループの友達と共通の目的や見通しをもち、考えを出し合いながら遊びや生活を進める。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 少し難しいことでも諦めずに取り組み、達成感を味わおうとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活に見通しをもって友達と一緒に取り組んだり、考えを出し合ったりする。【人間関係】 ・自分のめあてに向かって、諦めずに根気よく取り組む。【表現】 ・文字や数量に関心をもち、生活や遊びの中で使う喜びを味わう。【言葉】 ・冬から春への自然の変化に気付いたり、季節感を味わったりする。【環境】



ねらい 自分なりのめあてに向かって、試したり工夫したりしながらお面づくりに取り組み、でき上がった達成感を味わう。	
遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育て ほしい姿
<p><遊びや活動の経過></p> <p>寒い日が続き、バケツにできた氷に気付いたり戸外で遊ぶ時に風の冷たさを感じたりしている。反面、チューリップの芽が伸びている様子や梅のつぼみを見て、季節の変化に気付き、春の訪れに興味をもっている。節分の由来や立春について話をすると、鬼に興味を示す。豆まきへの期待も膨らんでいる。</p>	
<p><「おなかのなかに おにがいる」の絵本をみよう></p> <p>T：(絵本を読み終わって)皆のお腹の中には鬼はいないかな。 「鬼をもらってくれる人はいませんか」って言っているよ。</p> <p>C：僕のお腹にはいないよ。だけど鬼はいらない。</p> <p>C：私、泣き虫鬼がいるかもしれない。</p> <p>T：ごろちゃんみたいに「鬼は内」って言うへそ曲がり鬼はいないかな。</p> <p>C：いないよ。皆約束を守るものね。</p> <p>★：鬼の面づくりへの意欲を引き出すために絵本の読み聞かせを行い、幼児なりに自分を振り返ることができるようにする。</p> <p><お面の材料を選ぼう></p> <p>T：豆まきをするときにお面を付けるから、いろいろな材料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本をきっかけに自分の中に鬼がないかを振り返る中で、自分の弱い部分を豆まきするとき、体の外へ出したいという思いが膨らんでいる。 <p>【道徳性・規範意識の芽生え】</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージした鬼をつくるために、これまで使ってきた

を使って鬼のお面をつくってみましょうか。

C：やったあ。青鬼をつくろう。

C：材料がたくさんあるね。目はどれでつくろうかな。

C：ほんと。鬼の目は大きいからね。どれがいいかな。

C：トイレットペーパーの芯はどう。

C：いいね。大きい目でよく見えそう。それでいこう。

C：OK。僕もそうしよう。

C：毛糸を髪の毛にしようかな。

C：いいわね。私はどれを使おうかな。

★：様々な材料を準備し、幼児がイメージを実現するために必要な材料を選べるようにする。

<困ったなあ、うまく、くっつかないよ>

C：髪の毛がうまくくっつかないよ。どうしてかな。

C：のりじゃだめだよ。ボンドがいいよ。

C：見て。ボンドで貼ったよ。でも、何回してもモールがすぐにはがれてしまうよ。

C：僕のを持ってくるね。ほら見て、くっ付いてるよ。

C：ほんと。どうやってくっつけたの。教えて。

C：ボンドはすぐに乾かないから、貼ったらしばらく押さえておいた方がいいよ。

C：分かった。やってみるね。教えてくれてありがとう。

C：モールの幅の広い方がくっ付きやすいよ。

★：自分で何度か試してもうまくいかないときに、友達に相談して問題解決しようとしている。仕上がり具合を褒めるだけでなく、つくっている過程で見られる幼児の気付きを褒めるようにする。

<いろいろな鬼がそろってきたよ>

C：いろいろな鬼ができたね。豆まきが楽しみ。

C：A君の鬼のひげ、皆と違うね。面白い。

C：Bちゃんの鬼の髪の毛は、三つ編みなよ。

★：作品を見合う中で幼児が気付いていることを褒める、満足感や充実感が味わえるようにする。

た様々な材料の中から、必要な材料を選んでいる。また、友達と一緒に材料を選んでいる間に新たなイメージがわいている。【思考力の芽生え】



・自分の困っていることを相手に相談したり、相手の思いを受け止めて自分なりの考えを伝えたりしている。

【言葉による伝え合い】

・諦めずに試行錯誤しながら挑戦している。物の性質や仕組みについて気付き、思いを巡らし物を使いこなしている。

【思考力の芽生え】



・お互いの鬼のお面を見ることで、工夫している点や面白い点に気付き、互いに認め合い達成感を味わっている。

【自立心】

考

○実践のように、生活の中で使ってきた材料や用具を準備することは、自分のイメージを実現するために必要な物を選択し、使いこなせる姿につながっていくことが分かった。

察

○実践のように、幼児が思いを巡らしながら制作する時間を保障することは、試行錯誤しながらつくったり、うまくいかなかったときに友達に相談したり、友達の作品を見たりして、自分たちで問題解決できる姿につながることが分かった。

●実践のような姿は、表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、小学校以降の学習全般の素地となる。

事例14 接続中期-1 心のおにって、どんないろ

1月

保育所(園)・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 友達との関わりの中で互いの頑張りやよさに気付くとともに、自分の成長を感じるようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】 グループの友達と共通の目的をもち、考えを出し合いながら表現をする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生活を通して感じたことを自由にかき、最後までやり遂げようとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の流れや場の使い方を予測し、見通しをもって生活する。【健康】 ・友達への思いやりを深め、自分や友達のよさに気付き、自信をもつ。【人間関係】 ・身近な用具を大切に扱い、整理整頓する。【環境】 ・友達と共通の話題について自分の考えや思い、経験を言葉で伝え合う。【言葉】 ・考えやイメージを膨らませ、工夫し表現することを楽しむ。【表現】



ねらい 自分の退治したい鬼の絵に自分なりのイメージをもって、色付けすることを楽しむ。	
<p>活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点</p>	<p>幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p>
<p><遊びや活動の経過></p> <p>様々な行事に興味をもち、お正月に獅子舞が来たことや豆まきのときに鬼がやってくることに話が進んだ。「鬼のお面をつくろう」という話から、「野菜の好き嫌い鬼がいる」「怒り鬼がいる」など自分の心の中にいる鬼について話し始めた。「絵をかいてやっつけたらいい」「絵にして、貼ったらいい」など色々な考えが聞かれた。どんな素材でかくかを幼児に問いかけ、今までかいた経験から「ペンでかくなら下書きがいる」「濃くかいたら消えん」「薄くかいたらいい」などかくときの約束をクラス全員で確かめ、退治したい心の鬼の下絵を画面いっぱいにかいていく。</p>	
<p><自分が退治したい鬼は></p> <p>T：泣き虫鬼や怒りんぼ鬼、いろんな鬼がかけたね。皆の鬼を見てみようか。</p> <p>C：私は、好き嫌い鬼をやっつけたい。ピーマンも人参も食べられるようになりたいから。</p> <p>C：僕は怒りんぼ鬼。すぐにけんかするから。怒りんぼじゃなくなりたい。</p> <p>C：私は泣かないようになりたいから泣き虫鬼をかいたよ。</p> <p>C：片付けない鬼。いつもちらかしてしまうから。</p> <p>★：鬼の絵をかくにあたり、自分の中の弱さなどを自覚し、克服しようとする姿がある。それぞれの鬼のイメージに合う色付けができるように、お互いの思いのやりとりを</p>	<p>・友達や先生との関わりの中で、認められる体験を通して、自分の感じたことや考えたことを素直に表現している。</p> <p>【豊かな感性や表現】</p>

見守り、より「～らしく」なる表現を引き出していく。

＜色塗りの準備をしよう！＞

T：絵の具を配るよ。

C：僕のグループは4人。

C：あと2個、絵の具が足りない！

C：筆は皆、1本ずつあるね。

C：筆洗いもいるよね。

C：水を入れてくるよ。

★：絵の具の使用にも慣れており、グループごとに絵の具や筆洗いなどの準備を役割分担して進んで行っている様子を見守る。

＜この色だったら「らしく」なるかな＞

C：何色でも使ってもいい。いろんな色の鬼にしてみよう。

C：僕は黒色に塗ったから、黒くなった。黒に青を混ぜてみたら、もっと黒い黒になったよ。

C：食いしんぼ鬼は朝になってもお腹空いて、夜になってもお腹が空くんだ。サンドイッチ、せんべい、おにぎりも一緒にかいておこう。

C：好き嫌い鬼があかんべえしているところ。きのこもピーマンも嫌い。舌を赤く塗ろう。

C：怒りんぼ鬼。目が三角。すぐに喧嘩するし、すぐ怒るから顔は赤くしよう。

C：泣き虫鬼は水色。泣くと、涙も水色よ。

C：先生、3色混ぜてかいてみるね。

T：どんな色になるかな。

C：鬼は外にいるから虹もかこう。飛行機も飛んでる。

C：家もかこう。これは僕のうちだよ。

C：空をかいて、お月様とお日様もかいたよ。泣き虫鬼は夜でも昼でも泣いているんだ。

★：「退治したい」と思いながらも自分の鬼に愛着を感じながらかき進んでいく様子を見守る。自分なりのイメージを広げて色付けを楽しんでいる気持ちを、共感的に受け止める。

・作業に見通しをもち、準備などを役割分担して行っている。

【健康な心と体】



・自分の思いやイメージをもち、「～らしく」するために、混色を試したり、背景を付け加えたりして色使いを工夫しながらかいている。【思考力の芽生え】



・より鬼らしくなるようにイメージを膨らませながら、位置関係や空間関係などを意識し、かいている。【豊かな感性と表現】



考
察

○実践のように、表現する過程において友達の発想や色使いの工夫など、その面白さに気付き、自分の表現に取り入れ一層豊かな表現になるという経験は、表現することそのものを楽しむ姿につながるということが分かった。

○実践のように、思いや考えを伝え合うことは、自分のイメージをよりはっきりとつかめるようになり、自分の思いをのびのびと表現する姿につながるということが分かった。

●実践のような姿は、音楽や造形、身体等による表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、小学校以降の学習全般の素地になる。